



昨年 の 施 餓 鬼 法 要



第 135 号  
(令和 2 . 7 . 5)

信 楽 寺

〒690-0052

松江市 堅町 88

TEL (0852) 21-1589

FAX (0852) 21-1590

郵便振替口座番号

01450-3-13538



## 令和 4 年 (2022) 夏 に 変 更 聖 徳 太 子 1400 年 大 祭 奉 修



暑中お見舞い申し上げます

### ぼんせがきほうよう 盆 施 餓 鬼 法 要 ご 案 内

令和 2 年 8 月 4 日 (火)

午前 10 時 更

今年 の 施 餓 鬼 法 要 は 残 念 な が ら、無 参 拜 の 中 で の お 勤 め に な り ま す。

午 前 10 時 更 本 堂 に て 松 江 組 の 方 丈 様 と 勤 め ま す。

本 堂 正 面 を 開 け、外 に 焼 香 台 を 用 意 し ま す。午 前 10 時 か

ら 11 時 更 の 間 に ご 自 由 に お 参 り 下 さ い。

新 し い 灘 側 駐 車 場 も 開 け て お り ま す の で 駐 車 場 の 心 配 は

ご ざ い ま せ ン。

例 年 通 り 同 封 の 封 筒 に ご 回 向 す る 戒 名 を ご 記 入 頂 き、

事 前 に お 寺 に 届 け て 頂 く か、当 日 受 付 に て お 渡 し 下 さ い。

ま た、お 盆 前 の 一 斉 清 掃 は 行 い ま せ ン。

8 月 中 は 常 に 掃 除 用 具 を 用 意 し て お き ま す。各 自 お 盆 に

備 へ て 墓 地 清 掃 を 行 っ て 下 さ い。

当 日 法 要 の 中 で、コ ロ ナ 禍 の 一 日 も 早 い 収 束 を 祈 願 致 し

ま す の で、本 堂 外 側 か ら の お 参 り と は な り ま す が、皆 様 の

お 参 り を お 待 ち し て お り ま す。

# コロナ禍に思うこと

住職 楽誉 広平

皆さんお変わりなくお過ごしでしょうか。

どなた様にも想定不可能なコロナ禍により、大変な事態となりました。

きつと来年の教科書には世界を恐怖に陥れたコロナ禍と載り、歴史上の大きな出来事として、いつまでも語られるでしょう。

その意味に於いて私達は、歴史上劇的な時代の真直中を生きていると言えるのかも知れません。

当山住職として「お檀家さんから一人もコロナの犠牲者を出したくない、また住職家族が感染し法務に支障をきたす事があってはならない」と神経質に対処して参りました。皆さんもそれぞれご家庭の中で日々同じ気持ちでお過ごしのことと思います。

葉書を出してお寺として今出来る対応策をお知らせ致しました。

皆様が、不要不急の外出自粛を徹底された結果、お墓参りをされる方の急激な減少は

顕著でありました。

また、昨年暮れには先代住職妻、健子が逝去しまして、皆様にもお世話になり有難うございました。令和2年のスタートである新年会は、喪に服す意味で中止と致しました。

その後の行事もコロナ禍により、皆さんの集まる行事を総て中止とさせてもらい、春のお彼岸の法要も住職一人の本堂にて勤めました。

今まで当たり前に出ていた事が当たり前に出てなくなると、

ご近所さんとの会話にも、距離をとったり、マスクを着けなければならなくなり、手に触れる物総てに疑心暗鬼になる生活が、いつまで続くのだろうかと思います。



絵 娘千陽

今まで当たり前前に出来ていた事が出来難くなり、改めて人と人のつながりの大切さを感じます。

お釈迦様が説かれた「縁起」の教えは、「多くの生きとし生ける者、身の回りの多くの物との関係性により今の私が存在する。私一人の力では何一つ成し遂げる事が出来ない」と言うことを残されました。まさにこの様な時代が来ることを想定して、後の世を生きる我々に残してください。た教えなのではないかと思えます。

その尊さ、大切さに、コロナ禍の不自由な生活、関係を断ち切られた生活を強いられるようやく気づく私です。その「縁起」の教えの重要性を見落としてきた、日々の生活を反省せずにはおられません。

外出自粛によって多くの時間を使える今だからこそ日々の暮らしの中で、多くの命、多くの物と関係を持たなければ生きていくことが出来ない我が身を、見つめ直す大切な機会にしたいと思います。

「縁起」の他にお釈迦様の教

えには、2、500年前前にお悟りをお開きになられた後、時代が経てば経つほど、お釈迦様の教えは忘れ去られてゆき、教えが間違った形で歪められ、それと同時に人間の質が衰えてゆくと、お経の中には書かれ、五濁悪世の世の中になるとあります。

① 劫 濁 (ごじよくあくせ) 五濁悪世について一つずつ見てみます。

② 見 濁 (けんじやく) 時代のみだれで、戦乱、飢饉、疫病などが多くなる。

③ 煩惱濁 (ぼんのうじやく) 思想のみだれで、邪悪な思想がはびこること

④ 衆生濁 (しゆじゆうじやく) 貪・瞋・痴の三毒煩惱などが盛んになること

⑤ 命 濁 (めいじやく) 人びとの資質が低下して教えの理解力が劣化すること

人びとの寿命が短くなること

お釈迦様がお経の中で残された通りの世の中になっていくのではないのでしょうか。

近世の発展は生活を豊かに、便利なものにしてくれた

様に思います。私達は大事なものを犠牲にしてきたのではないかと思いません。

例えば旧市街地では空き家が目立ち、人の数もみるみる減っているにも関わらず、市外地では未だに、山を崩し、田んぼを埋め立てて団地を作ろうとしています。そんな風景を横目で見ながら、日本人の自給自足率の低さの問題や、貧富の差の拡大の問題を見て見ぬふりをしてる私です。

多くの手間が掛かることや、汚い仕事、きつい仕事は他人(外国人)に押しつけて、コロナ禍になる前は働き場所は沢山あるはずなのに、きれいで、簡単に儲かる仕事しかしたがない、横着な人間が多くなつたのではないですか。そのしつぺ返しが、コロナ禍なのではないかと思いません。

今では一気に状況が変わり、働きたくても働く場所が無くなって、どんな仕事でも有るのなら働きたい、そのせいで迷惑を被っているのが、今まで一生懸命に働いていた外国人の皆さんです。

先般は留学生の方かも知れませんが、宍道湖大橋を渡った北詰に、数人の外国人が大

橋川で釣りをしていました。とてもレジャー、趣味で釣りをするので無く、その日の食べる物にさえ困つての姿と見えました。

世界に蔓延するコロナ禍の原因は人間の質の低下、傲慢さによるものと言つても過言ではないでしょう。

私達ももっと謙虚にあるべきなのではないのでしょうか。あの国民的芸能人であった志村けんさんが70歳の若さで亡くなられました。

NHKの朝ドラ「エール」で作曲家山田耕作役で出演中の元氣な姿を見るにつけ、もうこの世に居られないと言うことが信じられず、コロナに感染し、あつという間に亡くなつていかれ、誰にも別れを告げる間もなく、近い方に見取られることもなく往つてしまわれました。

親族の元に戻つて来られたお姿はお骨となつての再会でした。

ご本人にとつても、親しい周りの方にとつてもこれ以上の悲惨な最期、別れはなかったことでしょう。

でも私達も同じ立場、



境内の蓮華が咲き始めました。お参りの際、観賞下さい。但し咲いているのは午前中だけですのでご注意下さい。

同じ身であることを決して忘れてはならないと思えます。もっと人間が謙虚になり、今の私に何が出来るのか考える必要があります。

私はその為のお念仏であると思えます。

目に見えないウイルスの恐怖に怯えるなか、お念仏の功德こそがこの世を生ききる為の杖とならなければならぬと思えます。

お念仏をお称えする私達には必ず阿弥陀仏様がお迎えに来て下さります。

この救いこそが、この五濁悪世の世の中であつても、しっかりと正しい道を歩み進めていける唯一の得策であります。外出自粛の今だからこそご自宅でご一緒にお念仏をお称えしましょう。

### 聖徳太子 一千四百年大祭について

来年7月22日聖徳太子像の50年に一度のご開帳の年に当たります。奇しくも翌日23日はオリンピックの延期に伴い、その開会式の日となりました。

オリンピックの実施が不確定の中、大祭の準備も当初の計画よりも遅れております。

そこでせつかくのご開帳です。で、来年、再来年と二回実施し、メインの行事をコロナ禍の影響が減少する可能性が高い、再来年(2022年)に考えてはどうかと思つております。

聖徳太子の孝養像はお父様、用明天皇がご病氣になられ、その全快を祈られた16才のお姿です。

今回のコロナ禍の終息を祈願の為にも併せて勤めたいと思えます。詳細は次号つきかげにてご連絡致します。

### 写経のスズメ

「四誓偈」の写経用紙です。生活様式の変化に、心落ち着かずイライラの日々をお過ごしでしょうか。どうぞゆつくりとした時間を過ごして下さい。

写経は4日の盆施餓鬼時、又は棚経時でもお預け下さい。お気持ちとしてお供え頂けますと喜びます。

## 念願のインド旅行

佐々木博章

お寺の総代をさせて頂いており、自然とお寺の行事を通じて仏教の関心も高まり、仏教の発祥国インドに行つて見たいと思っていました。

たまたま知り合いからの誘いがあり、私にとっては未知の国で、多少不安でしたが、縁あり10名余りの団体旅行に参加しました。

令和元年11月20日米子から夜行バスに乗り大阪へ、朝、関西空港から韓国インチョン経由でインディラ・ガンディー空港（デリー）には約10時間かかりました。当空港に降り立つと、何とも言えない臭いがし、街全体がスモッグで霞んでいました。

デリーはニューデリーとオールドデリーからなっており、オールドデリーは開発が遅れていて、埃ぼく、車のクラクションの音が響き、せわしない街でした。

今回の全行程はデリーから車で約6時間南下したジャイプールを観光し、そこから約2時間東に行ったアグラを観

光する5泊6日の旅でした。

特に印象に残った観光地は世界遺産であるアンベール宮殿とタージマハールです。

アンベール宮殿では象に乗り、揺れながら山頂の宮殿まで、王国の贅沢究めた門構え、装飾された壁面など、昔の栄華が偲べれます。

タージマハールはインドイスラム文化の代表的な建築物で、総大理石の墓廟です。私はレンタルしたサリーを着て、墓廟前で自慢の写真を撮りました。（写真の通り）



インドの人口は現在約13億ですが、数年後には中国を抜いて世界一の人口になると言われています。私の見た限り貧富の差が余りにも大きくて、世界有数な経済大国になるにはまだまだ年数が必要ではないかと思えました。貧富の格差はヒンドゥー教のカースト制度に起因しているとも言われており、もし仏教がすたれず広まっていれば、阿弥陀様の教えの通り貧富の少ない平等の社会が形成されていたことと思います。

インド料理には北料理・南料理等あります。我々は北料理を食しましたが、様々なスパイスを駆使したカレー味の料理で、私の口には余り合いませんでした。宗教の関係から、牛肉と豚肉は食べられず、肉と言えば鶏肉かラム肉となります。生水・牛乳・アイスクリームは口に入れてはいけなると言われていたので、代わりにビールを美味しく飲みました。

インドの交通事情は、殆ど交通ルールは無いのも同然で、あいだ入りする車、スピードを出し、クラクションを必要以上に鳴らす車に、乗って

いる者はひやひやものです。また高速道路に野良牛が侵入したり、寝そべっていたり、日本では考えられないようなことがありました。高速道路では、日本のようなサーブिसエリヤがなく、便所の近い人はあらかじめ、紙おしめをはいておくように指示がありました。小生も生まれて初めてはいた次第です。

インドの宗教は約80%がヒンドゥー教、約14%イスラム教で、なんと仏教は1%弱です。

13世紀初頭にイスラム教の軍がベンガル地方に侵攻し、仏教の拠点である精舎を破壊・虐殺したことにより滅んだとも言われていますが、現在は、カシミール・東ベンガル地方などに細々ながら存続しているだけです。

結局当初の目的のインド仏教に触れることもなく、ヒンドゥー教とイスラム教の寺院を見て回っただけとなりました。その点が残念ではありましたが、遠い国インドが身近な国になったような気がします。

## 「お父さん ありがとう」

太田 弘子

令和元年9月10日享年72歳、主人は不慮の事故で亡くなりました。私と二人の娘を残して旅立ってしまいました。

私達家族は周りの方々を守られ助けられやっと今日まで過ごすことが出来ました。心から感謝している今日この頃でございます。

葬儀当日方丈様が「なるべくたくさん南無阿弥陀仏を唱え、線香も出来るだけたくさん供えてあげて下さい。御主人様はあの世でも隣に席を空けて待つて居てくださいます。」と教えて頂きました。

毎日、毎日、南無阿弥陀仏、線香、お花等々仏壇にお供えし拜んでおりますと、1日では足りず、仏様が気になり外出することが出来なくなっておりまして。

2ヶ月ぐらいいましたら、やっと拜むことにも慣れ外出する気分になりましたので、生前主人と趣味で1反3畝ほどの草山を畑に開墾し、主人は木を育てたり小屋を建て、私は野菜や花を育て私達夫婦の遊園地として楽しんでおり

ました。

その畑に行ってみると、なんと主人が大切に育てていた松の木（直径55cm位）、種から育てた松の木（直径15cm位）、ヒバの木（直径20cm位）、キウイの雌木（直径15cm位）がたった主人の死後2ヶ月でもこの見事に茶色に枯れていました。

私は畑に着くなり、木々の枯れたその畑の無残さを見ながら茫然と立っていました。

「お父さん！ここ（畑）に居るの？お父さんが大事にしていたこの木をあの世に持って行ったの？」私は主人がこの畑に居るかのような気持ちになりました。

主人の御霊（みたま）は必ずある、主人は必ず私達を今後守ってくださいと確信致しました。

それはそうでしょう、主人の看病（5日間）、葬儀、法要などしていた、たった2ヶ月間で主人が大切にしていた木ばかりが、しかも大木が枯れているのですから。

あの世で山仕事でもするつもりでしょうか。（主人は樹木

医でありました。）

今後、私はこの枯れた木々を片づけ、残された木、果樹、野菜、花を育て、畑を守ることに主人への供養だと思いを強く致しました。

また、4ヶ月後のお正月（元日）2人の娘と3人で京都の総本山知恩院へお参りをしました。

お昼前ぎりぎりに到着し、ご回向をして頂きました。

ご回向を終え、本堂を去る時、お香の煙が立ち込めるその奥のご本尊様に向かい「お父さん！お父さんが居なかつたけど今まで私達一生懸命だったんだよ！頑張ったよ！また来るね！今度来るまで私達頑張るわあ！」と手を合わせたら、お香の煙と、お経の音が流れる中から主人が「おう！遠いところ、みんな連れてよう参ったなあ！また来いよ！」と聞こえて来たような気がしました。

「お父さん！また来る！また来るよ！それまで私達頑張る！また会おうね！」必死で呼び止めている私が居ました。

主人の声、お経の煙のすばらしさ、お香の煙の立ち込める中での神秘さで今まで4ヶ月間の心の

緊張が一気に解け、涙がとめどなく流れました。

しばらく見学し、心を落ち着かせ、後ろ髪を引かれる思いで知恩院を後にしました。

そして、8ヶ月、小さな我が家の箱庭に主人が植えた小さな木（何の木か分からない）がまた1本枯れていました。

「よく笑って楽しそうにしてる人ほどたくさん泣いてきた人」という私の大好きな誰かの言葉があります。

私もこの言葉どおりにもう泣かないでこれからは笑って行こうと、そして、なにも分からない仏の道ですが、せめて私なりに心にはいつも南無阿弥陀仏と唱え、周りの方々への感謝と主人の今日までのご加護に感謝し一日一日を大切に生きて行こうと思っております。



## 令和元年度 信楽寺維持費会計

(自平成31年4月1日～至令和2年3月31日)

### 収入の部

単位 (円)

	令和元年予算	令和元年度決算	令和2年度予算	備 考
維持費収入	3,000,000	3,011,000	3,000,000	
繰越金	362,730	362,730	333,977	
合 計	3,362,730	3,373,730	3,333,977	

### 支出の部

単位 (円)

	令和元年度予算	令和元年度決算	令和2年度予算	備 考
課金(宗費他)	750,000	608,800	650,000	浄土宗宗費・組費など
法要行事費	300,000	330,000	400,000	盆施餓鬼・新年会
教化布教費	50,000	56,694	60,000	書籍購入費
会議費	200,000	156,391	160,000	総代会・世話人会
つきかげ印刷代	250,000	200,560	210,000	年2回印刷代
租税公課	150,000	144,200	112,100	固定資産税
火災保険	250,000	251,370	260,000	本堂・庫裡・山門・聖徳太子堂
庶務費	350,000	343,058	350,000	コピー機リース代・AEDの設置
通信費	300,000	285,308	300,000	つきかげ発送代
助成費	100,000	60,000	100,000	詠唱会・つきかげ会へ
税理士報酬代	160,000	153,832	160,000	
予備費	52,730	73,700	21,877	消化器
水道光熱費	150,000	150,000	200,000	
雑費	300,000	225,840	350,000	松、樹木剪定代
合 計	3,362,730	3,039,753	3,333,977	

特別積立金合計 2,000,000円

3,373,730 - 3,039,753 = 333,977 (次年度繰越)

会計監査 令和2年6月25日

決算書類を監査し適正に処理されていることを認めます。

笠原 純 印

小倉 俊雄 印



### 令和2年度年会費納入のお願い

令和2年度年会費未納のお宅は早めに納入頂きますようお願い申し上げます。

## 令和元年度寄付金総額 一金 2,750,000円

戒名料・その他年回法事に寄付として頂いた総額です。

この寄付金は次の様に使わせて頂きました。

- ・仏具、法衣代
- ・大型ストーブ2台
- ・本堂前天水鉢
- ・車イス用リフト代



275万

### 追善寄付

為 父追善  
 為 父追善  
 為 母追善  
 為 父追善  
 為 父満中陰追善  
 為 兄追善  
 為 母追善  
 為 夫追善  
 為 父追善  
 為 本人生前戒名  
 為 父17回忌法事追善  
 為 母追善  
 為 本人生前戒名  
 為 父追善  
 為 父追善  
 為 本人生前戒名  
 為 本若槻家先祖代々追善  
 為 妻3回忌追善

金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封

施主 田中 勝廣  
 施主 青戸 吉規  
 施主 亀谷 均  
 施主 本田 聡  
 施主 青戸 吉規  
 施主 緒方 昌代  
 施主 松崎 武  
 施主 岩崎 花枝  
 施主 野津 勇輔  
 施主 来海 富子  
 施主 春木 崇司  
 施主 三上 裕二  
 施主 三上 春美  
 施主 伊藤 俊之  
 施主 伊中 敏彦  
 施主 伊藤 久子  
 施主 若槻 喜保  
 施主 山根 健義

### 寄贈図書

ご本人寄贈

親子で学ぶシリーズ第8弾 宍道 正年著

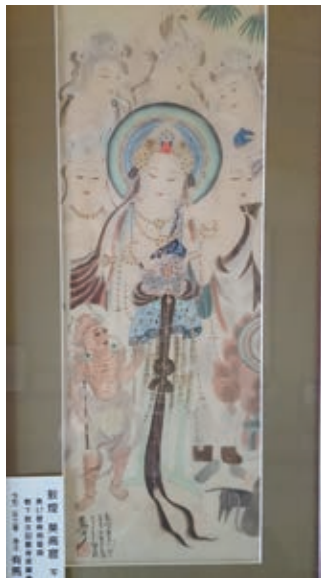
世界遺産石見銀山

松江市立歴史館より

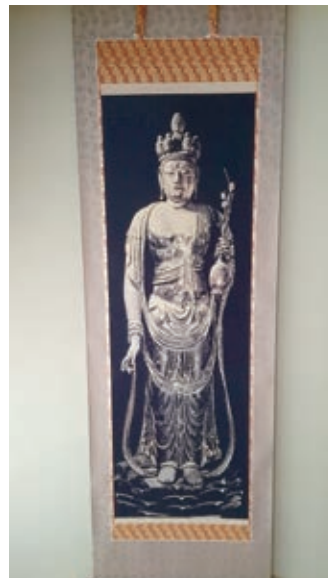
松江市につたわる指定文化財

決定版昭和史全巻

施主 有馬 道夫



敦煌 莫高窟写仏  
 第57窟南側壁画  
 樹下説法図観音菩薩像  
 施主 有馬 道夫



西陣美術織  
 国宝聖林寺十一面観音御軸  
 施主 来海 富子

# 令和2年 後半行事予定

行事	期日	時間	場所	備考
聖徳太子祭り	7月22日(水) ～25日(土)		聖徳太子堂	
聖徳太子祭おつとめ	7月24日(金)	午後6時半	聖徳太子堂	
棚 経	8月1日(土) ～15日(土)			お盆にお参りします順番を同封しておりますので、ご確認下さい。
<b>中止</b> 墓地一斉清掃	8月2日(日)	午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃	信楽寺墓地 松尾町墓地	
盆施餓鬼法要	8月4日(火)	午前10時	当山本堂	本つきかげ表紙の通り、今年は本堂にて無参拝の中でお勤め致します。どうぞ皆様午前10時から11時までの間に順次お参り・ご焼香くださいませ。同封しております供養袋は当日か事前にお寺にお持ちください。
<b>中止</b> とうろう流し	8月16日(日)			大橋川にて毎年恒例の松江仏教会主催の灯籠流しも残念ながら中止となりました。
地藏盆おつとめ	8月23日(日) ・24日(月)		松尾町地藏尊 豎町灘側地藏尊	
<b>中止</b> おてつぎ 信行奉仕団 (本山参拝)	9月17日(木) ～18日(金)		総本山 知恩院	知恩院で一番中心のお堂である御影堂(みえどう)完成落慶のお祝いの年でありましたが、残念ながら中止とさせていただきます。
秋彼岸供養・ 永代供養法要	9月22日(火)	午後1時半	当山本堂	盆の施餓鬼法要同様に、無参拝のなか住職一人で勤めます、出来れば午後1時半より2時半の間ご自由にお参りください。
<b>中止</b> 出雲教区詠唱大会	10月16日(金)	午後1時半	松江・東林寺	両行事共に今年では中止となりました。来年なるべく同じ時期、同じ会場で予定しております。来年度行事次号「つきかげ」にてお知らせ致します。
<b>中止</b> 出雲教区檀信徒大会	10月22日(木)	午後より	出雲市大社町 [大社文化プレイスうらら館]	
十夜法要	11月3日(火) (文化の日)	午前10時より	当山本堂	後日、塔婆の申込みを往復ハガキにて、直接ご案内致します。例年通りの十夜法要が出来るのか、又は無参拝のなか住職一人で勤めさせてもらうのか、時世を見てご案内を致します。一応はご予約にお組み入れ頂きますようお願い申し上げます。
今年最後の 墓地清掃・浄焚会	12月6日(日)	午前7時	本堂正面	浄焚会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気軽にご相談下さい。

\* 基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予約にお組み入れ下さい。

## 定例行事ご案内

### \* 御詠歌の練習 \*

毎月第1・第3土曜日  
午後1時半より

### \* 墓地清掃 \*

毎月第1日曜日早朝  
(1・2月はお休みします。3月は14日(日)です)

### \* つきかげ会 \*

毎月第2日曜日  
午後1時半より

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。また、月によって日時・時間が多少変更する事がありますので、本堂前掲示板にてご確認ください。

### 編集後記

コロナ禍に振り回された前半行事は、悉く中止となり、「つきかげ」に載せる情報もほとんどありませんでした。今まで14頁であったものを8頁に縮少し、その代わりオールカラー頁にて作成致しました。後半行事も中止が多くなり、残念ではありますが、辛抱の時でございます。

今後生活様式も変わり、法要の様式も変わります。

葬儀は家族葬と言う名称と共に、少人数化となり、家族だけの葬儀が珍しくなくなりました。

また、新聞に載っていましたが「流れ焼香」が、コロナ禍では当たり前になりそうです。葬儀の法要前に参列者が焼香を済ませ、その後家族だけで葬儀をするのだそうです。

でも何の為の葬儀なのでしょう。やはり法要に参列しなければ意味がありません。

この時期だからこそ、本来の法要の意味を見直し、「南無阿彌陀仏」のお念仏を何の為に称えるのか、じっくり考えていく必要があるのではないか、という